

令和8年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価（ 月 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①評価と指導の一体化・観点別評価の充実を図る。また、生徒の自学自習を促進させ、個別最適な学びを提供する。 ②福祉マインド・思いやりの心を醸成するべく、教科横断的な学習を実践する。 ③学校行事や生徒会活動を充実させ生徒の主体性を育み自己肯定感を高める。	①生徒の学習意欲につなげるため評価と指導の一体化・観点別評価及び形成的評価について教職員全体で確認をし、より良い評価を行えるようにする。 ①生徒に自学自習の習慣をつけさせるための方法を模索する。 ③生徒の主体性を育み自己肯定感を高め、思いやりの心を醸成する。	①観点別評価などについての研修会を実施し、教科ごとに検討する時間を設けて研鑽を深める。 ①ICT機器の利活用の研究を深め、生徒の学習習慣の確立に向けた提案を行えるようにする。 ③行事や部活動において、「生徒主体」のプロセスを導入する。生徒一人ひとりに活躍の場を与えるため、役割の細分化を行う。活動後に、結果だけでなく過程や成長を確認する「振り返りの時間」を確保する。	①研修会を実施できたか。また、その後の教科会で具体的な検討ができたか。 ①様々な機器等の研究を行い生徒に提示できたか。 ③与えられた役割やそれ以外について、自発的に課題を発見し、解決に向けて行動させることができたか。集団への貢献や自分自身の成長を実感し、自己の価値を認めさせることができたか。立場や意見の異なる他者を尊重し、協力したり、困っている仲間をサポートしたりさせることができたか。					
2	生徒指導・ 支援	①困難を抱える生徒の現状をとらえ、支援の方向性を定める。 ②生徒に基本的な生活習慣を身につけさせ、問題行動への対応を充実させる。	①教育相談体制が整ってきたので、ケース会議等を積極的に行い、生徒が抱える困難やニーズを把握し諸機関と連携したより良い支援を行えるようにする。 ②組織的な対応を行い問題行動の未然防止、問題行動への的確な対応を行う。	①教育相談フォー図に従いSC・SSW や校外機関との連携を強め、個ではなく集団での支援を行う。 ①生徒の実態に応じた支援を行うため支援員やボランティアを有効活用し、TT が有機的に機能するよう、こまめな打合せを行う。 ②日頃より生徒を観察し、グループ・学年に留まらず学校全体で情報共有し問題行動等の未然防止に取り組む。情報交換会・ケース会議を機能させ、迅速・適切な対応を行う。	①生徒に応じたきめ細かい適切な組織的な支援を行ったか。 ①サポートブックの結果等を活用し、困っている生徒に対応できたか。 ①TT が機能する教育活動が行えたか。 ②問題行動は少なくなったか。情報交換会やケース会議を組織的に行うことができたか。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①校内及び家庭での学習時間を保障し、生涯を通した学習への態度を醸成する。 ②進路指導の充実を図り、生徒の進路第一希望を叶える方策をとる。	①学習時間の確保のため様々なツールを利活用させ、自学自習の習慣作りを行い基礎学力の充実を図る。 ②生徒の進路第一希望(=指定校推薦ではない)を叶えるための方策を計画し実行する。	①学習の指導において ICT の活用や補講等の学習支援を行い基礎学力の定着を図り自学自習の習慣を育成する。 ②進路説明会や講話等のキャリア行事を通して、将来への目標意識を高める。進路情報を教職員で共有し、きめ細やかな進路選択支援を行い進路の第一希望への意識を高める。	①ICT を有効に活用することができたか。補講等の支援により基礎学力の定着を図ることができたか。それらを通じて自学自習を習慣化できたか。 ②生徒がキャリア行事を通じて自身の目標設定に向けて取組むように指導できたか。生徒の実力を伸ばし、進学希望が実現できる支援が行えたか。					
4	地域等との協働	①地域との交流を学校全体に広げ、持続性を持てるようにし、ソーシャル・リスponsibilityを果していく。	①より多くの生徒が交流事業に参加できるように組織的に動き、全ての生徒に交流事業を提示し、ボランティア活動の意義を伝える。 ①ソーシャル・リスponsibilityの概念を醸成し、学校の社会的責任を考えることができる生徒を育て、地域とともに発展する態度を養う。	①総合的な探究の時間を通して、地域の文化や歴史を理解させ、地域との連携強化のため、地域イベント等に参加し交流を深めるとともに、共生社会の在り方を考えさせる。また、ボランティア活動の意義を伝え、多くの生徒がボランティアに参加できるように導く。学校の社会的責任を考えることのできる生徒を育てる。 ①学校と地域の相互理解を深める。また、地域の力を学校教育の場に導入できるよう努める。	①社会問題への意識を高め、主体的に行動する力を身に付けさせることができたか。地域に貢献する活動を意識させボランティア活動に参加させ、学校の社会的責任を考えさせることができたか。 ①地域と学校との相互理解を深め地域の力を教育の中に取り入れることができたか。					
5	学校管理 学校運営	①生徒が安心して通える安全な環境を整えるとともに、防災意識を高く持つ。また、校内美化に努める。 ②事故不祥事防止に努め、ヒヤリハットで食い止められる組織を作る。	①様々な想定での訓練を計画実施し、常に備える意識を涵養し、また校内美化に努める。 ②事故不祥事防止に努める。 ②時間外在校等時間の縮減に努め月 45 時間以内に収まるようにする。 ②「神奈川県为学校部活動に関する方針」を遵守し部活動休養日を週 2 日以上設ける。	①多様な場面を想定した避難訓練を複数回実施する。 ①全校一斉清掃や美化点検を継続し、防災意識と環境保全意識を醸成する。 ②研修の講師役を職員が分担で務めることで、お互いに気に掛け合う職場環境を構築して未然防止に努める。 ②各職員が勤態システムの集計状況を定期的に把握する習慣を付け、適正化に努める。 ②活動計画の作成と実施結果の報告を徹底し、活動状況を見える化する。	①訓練での迅速な避難行動が定着したか。 ①清掃や定期点検を通じて良好な校内環境が年間を通して維持されているか。 ②事故不祥事の防止につなげることができたか。 ②時間外勤務時間の適正化が図られたか。 ②活動休業日が週 2 日以上を維持できたか。					